



IntelliReport

Discoveries IntelliReport

アドイン設置手順書

SharePoint 管理センター編

2022年11月25日
ディスカバリーズ株式会社

目次

1	事前準備	1
1.1	展開用ファイル配置	1
1.2	前提条件	2
1.2.1	作業端末のシステム要件	2
1.2.2	コンポーネント要件	2
1.2.3	アカウント要件	2
1.2.4	アクセスログ取得対象サイトコレクション	3
2	実施手順	4
2.1	コンポーネントインストール	4
2.1.1	Microsoft Online Services Sign-in Assistant	4
2.1.2	SharePoint Online Management Shell	6
2.1.3	Windows Azure Active Directory Module for Windows PowerShell	8
2.1.4	Microsoft Azure Active Directory Module	8
2.2	カスタムスクリプト設定の確認	9
2.3	アプリカタログの作成	11
2.4	アプリカタログへ展開	13
2.5	クライアント ID シークレットの登録	15
2.6	Office365 監査ログ連携設定	17
3	Appendix	18
3.1	クライアント ID シークレット情報の期限更新手順	18
3.1.1	更新用ファイル準備	18
3.1.2	更新対象確認	19
3.1.3	更新スクリプト実行	21
3.1.4	更新後の確認	24
3.2	アプリアンインストール手順	25
3.2.1	アクセスログ取得停止	25
3.2.2	サイトコンテンツからの削除	25
3.2.3	アプリカタログからの削除	25
3.3	クライアント ID シークレット情報の削除手順	27
3.3.1	削除用ファイル準備	27
3.3.2	削除対象確認	28
3.3.3	削除スクリプト実行	29
3.4	監査ログ連携用アプリの削除手順	31
4	補足	33

1 事前準備

本章では、作業の事前準備について説明します。

1.1 展開用ファイル配置

インテリレポート展開用ファイルをダウンロードし、作業端末の任意の場所に解凍します。

<<https://www.discoveries.co.jp/download/IntelliReport/Manual/TryIR.zip>>

これには、以下のファイルが含まれています。

【スクリプトファイル一覧】

ファイル名	内容	備考
Discoveries.O365.SP.Intellireport.app	インテリレポートのアプリケーションファイル	アプリカタログにアップロードするファイルです。
IntelliReportForModernUI.sppkg	インテリレポートのアプリケーションファイル(モダン UI 用)	アプリカタログにアップロードするファイルです。
ITRremove.zip	クライアント ID 削除スクリプト	クライアント ID シークレット削除に使用するファイルです。
ITRrenew.zip	クライアント ID 更新用スクリプト	クライアント ID シークレット更新に使用するファイルです。

【マニュアル一覧】

ファイル名	内容	備考
01_IntelliReport_Add-ins_InstallationManual_SP.pdf	アドイン設置手順書 (SharePoint 管理センター編)	本書です。 アプリカタログでの操作を実施します。
02_IntelliReport_Add-ins_InstallationManual_SiteCollection.pdf	アドイン設置手順書(サイトコレクション編)	本書の作業完了後に使用します。 アクセスログ取得対象の各サイトで実施します。
03_AuditLogSetting.pdf	Office365 監査ログ連携機能 アクティブ化手順書	Office365 監査ログを、インテリレポートと連携するための設定情報を取得します。
04_UserManual.pdf	インテリレポートユーザーマニュアル	インテリレポートサイトの使用方法を説明しています。インテリレポートサイトからもダウンロード可能です。
05_O365SigninSetting	Office365 認証連携マニュアル	Office365 認証を使用しインテリレポートサイトにサインインするための設定を実施します。

1.2 前提条件

インテリレポートアプリを設置するための前提条件について説明します。

1.2.1 作業端末のシステム要件

OS バージョンは、以下が必要です。

- ・ Windows 10
- ・ Windows 8.1
- ・ Windows 7 Service Pack 1 (SP1)
- ・ Windows Server 2012 R2
- ・ Windows Server 2012
- ・ Windows Server 2008 R2 SP1.

※各 OS は 64Bit バージョンであること

実行には、以下の環境が必要です。

- ・ PowerShell : バージョン 5.0 以降
- ・ .NET Framework : バージョン 4.5.2 以降

1.2.2 コンポーネント要件

作業端末には、以下のコンポーネントが必要です。

インストール手順の詳細は、後述の「2.1 コンポーネントインストール」をご参照ください。

- ・ Microsoft Online Services Sign-in Assistant
- ・ SharePoint Online Management Shell
- ・ Windows Azure Active Directory Module for Windows PowerShell
- ・ Microsoft Azure Active Directory Module

1.2.3 アカウント要件

本書の操作は、Office365 管理センターへのアクセス権が必要です。

作業を実施するアカウントに対し、以下を設定してください。

- ・ 作業端末の Administrators 権限
PowerShell の実行時に利用します。
- ・ SharePoint Online 管理者権限 (SharePoint Farm 管理者)
2.2～2.4 の実行時に利用します。
- ・ AzureAD 全体管理者権限
監査ログ連携設定、クライアント ID シークレット情報の更新・削除時に利用します。

※参考 URL : SharePoint-Online-管理者の役割について

<[https://support.office.com/ja-jp/article/SharePoint-Online- 管理者の役割について -f08144d5-](https://support.office.com/ja-jp/article/SharePoint-Online-管理者の役割について-f08144d5-)

9d50-4922-8e77-4e1a27b40705>

※参考 URL : Azure Active Directory での管理者ロールのアクセス許可

<<https://docs.microsoft.com/ja-jp/azure/active-directory/users-groups-roles/directory-assign-admin-roles>>

1.2.4 アクセスログ取得対象サイトコレクション

アクセスログ取得対象となるサイトコレクションをご用意ください。

(例) <https://〇〇〇.sharepoint.com/sites/△△△>

サイトコレクション配下のサブサイトは、既定で自動的にアクセスログ取得対象となります。

※ルートサイトコレクションには、インテリレポートアプリは設置できません。

2 実施手順

本章では、インテルレポートアプリの設置手順について説明します。

2.1 コンポーネントインストール

作業端末に、必要なコンポーネントを 4 種類インストールします。

既にコンポーネントが存在している場合は、本節はスキップしてください。

- ・ Microsoft Online Services Sign-in Assistant
- ・ SharePoint Online Management Shell
- ・ Windows Azure Active Directory Module for Windows PowerShell
- ・ Microsoft Azure Active Directory Module

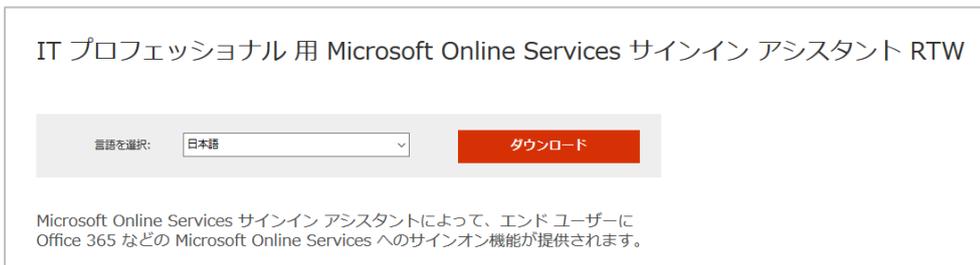
2.1.1 Microsoft Online Services Sign-in Assistant

1. ダウンロードページのリンクを開きます。

Microsoft Online Services Sign-in Assistant for IT Professionals RTW

<<https://go.microsoft.com/fwlink/p/?LinkId=286152>>

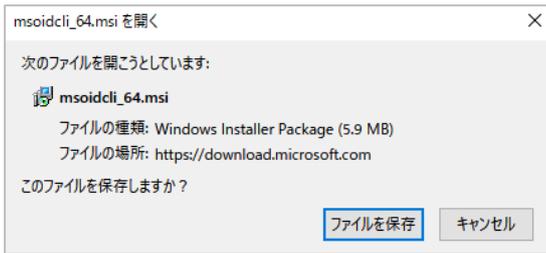
2. ドロップダウンリストから「Japanese」を選択します。
3. 日本語ページに切り替わるので、「ダウンロード」を選択します。



4. 「msoidcli_64.msi」にチェックを入れ、「次へ」を選択します。

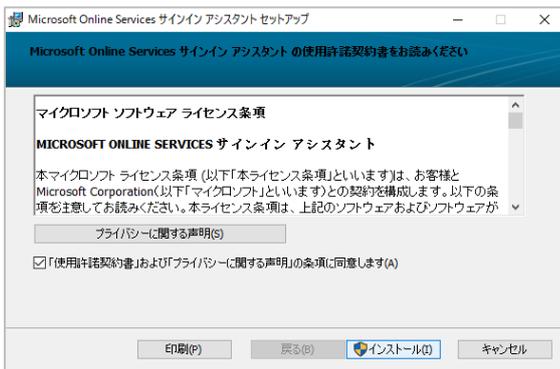


5. 「ファイルを保存」を選択します。



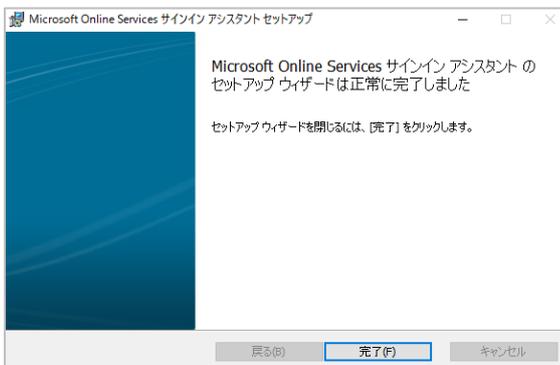
6. ダウンロードしたファイル「msoidcli_64.msi」を実行します。

7. ウィザードが起動するので、使用許諾に同意し、「インストール」を選択します。



8. ユーザーアカウント制御画面が表示されるので、「はい」を選択します。

9. 「完了」を選択します。



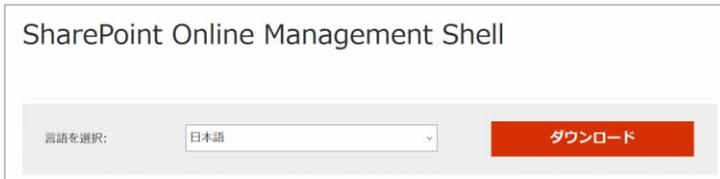
2.1.2 SharePoint Online Management Shell

1. ダウンロードページのリンクを開きます。

SharePoint Online Management Shell

<<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=35588>>

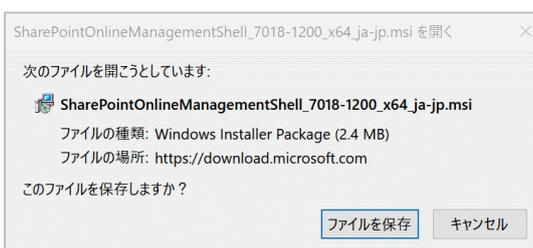
2. 「ダウンロード」を選択します。



3. 「SharePointOnlineManagementShell_7018-1200_x64_ja-jp.msi」にチェックを入れ、「次へ」を選択します。



4. 「ファイルを保存」を選択します。



- ダウンロードしたファイル「SharePointOnlineManagementShell_7018-1200_x64_ja-jp.msi」を実行します。
- ウィザードが起動するので、使用許諾に同意し、「インストール」を選択します。



- ユーザーアカウント制御画面が表示されるので、「はい」を選択します。
- 「完了」を選択します。



2.1.3 Windows Azure Active Directory Module for Windows PowerShell

1. スタートメニューを開き、「Windows PowerShell」と入力し、右クリックから「管理者として起動」を選択します。
2. ユーザーアカウント制御が表示されるので、「はい」を選択します。
3. 以下を入力し、エンターキーを押下します。

```
Install-Module -Name AzureADPreview
```

4. 続行確認メッセージが表示されるので、「y」を入力し、エンターキーを押下します。
5. インストールが完了するまで、少し待機します。
6. 続行確認メッセージが表示されるので、「y」を入力し、エンターキーを押下します。
7. インストールが完了するまで、少し待機します。

```

管理者: Windows PowerShell
Windows PowerShell
Copyright (C) Microsoft Corporation. All rights reserved.

PS C:\WINDOWS\system32> Install-Module -Name AzureADPreview

続行するには NuGet プロバイダーが必要です
PowerShellGet で NuGet ベースのリポジトリを操作するには、'2.8.5.201' 以降のバージョンの NuGet
プロバイダーが必要です。NuGet プロバイダーは 'C:\Program Files\PackageManagement\ProviderAssemblies' または
'C:\%
\AppData\Local\PackageManagement\ProviderAssemblies' に配置する必要があります。'Install-PackageProvider
-Name NuGet -MinimumVersion 2.8.5.201 -Force' を実行して NuGet プロバイダーをインストールすることもできます。今すぐ
PowerShellGet で NuGet プロバイダーをインストールしてインポートしますか?
[Y] はい(Y) [N] いいえ(N) [S] 中断(S) [?] ヘルプ (既定値は "Y"): y

信頼されていないリポジトリ
信頼されていないリポジトリからモジュールをインストールしようとしています。このリポジトリを信頼する場合は、Set-PSReposit
ory コマンドレットを実行して、リポジトリの InstallationPolicy の値を変更してください。'PSGallery'
からモジュールをインストールしますか?
[Y] はい(Y) [A] すべて続行(A) [N] いいえ(N) [L] すべて無視(L) [S] 中断(S) [?] ヘルプ (既定値は "N"): y
PS C:\WINDOWS\system32>

```

2.1.4 Microsoft Azure Active Directory Module

1. スタートメニューを開き、「Windows PowerShell」と入力し、右クリックから「管理者として起動」を選択します。
2. ユーザーアカウント制御が表示されるので、「はい」を選択します。
3. 以下を入力し、エンターキーを押下します。

```
Install-Module -Name MSOnline
```

4. 続行確認メッセージが表示されるので、「y」を入力し、エンターキーを押下します。
5. インストールが完了するまで、少し待機します。

```

管理者: Windows PowerShell
PS C:\WINDOWS\system32> Install-Module -Name MSOnline

信頼されていないリポジトリ
信頼されていないリポジトリからモジュールをインストールしようとしています。このリポジトリを信頼する場合は、Set-PSReposit
ory コマンドレットを実行して、リポジトリの InstallationPolicy の値を変更してください。'PSGallery'
からモジュールをインストールしますか?
[Y] はい(Y) [A] すべて続行(A) [N] いいえ(N) [L] すべて無視(L) [S] 中断(S) [?] ヘルプ (既定値は "N"): y

```

2.2 カスタムスクリプト設定の確認

アクセスログ取得対象サイトコレクションのカスタムスクリプトの設定状態を確認します。

※本設定が正しくない場合、アプリケーション設置に失敗します。

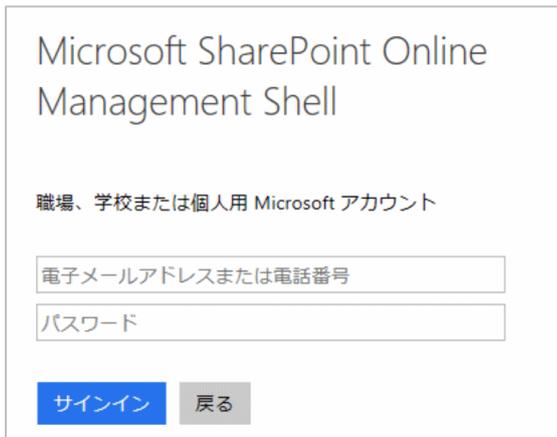
1. スタートメニューを開き、「Windows PowerShell」と入力し、右クリックから「管理者として起動」を選択します。
2. ユーザーアカウント制御が表示されるので、「はい」を選択します。
3. 以下を入力し、エンターキーを押下します。

```
Connect-SPOService https://<お客様のテナント名>-admin.sharepoint.com
```

(例) Connect-SPOService https://discoveries-admin.sharepoint.com



4. サインイン画面が表示されるので、SharePoint Online 管理者アカウントを入力し、サインインします。



5. SharePoint 管理センターに接続されます。
6. 以下 2 行を入力し、エンターキーを押下します。
※<アプリを配置したいサイト名>には、この時点で存在するサイト名を入力してください。

```
$site = Get-SPOSite https://<お客様のテナント名>.sharepoint.com/sites/<アプリを配置したいサイト名>
$site.DenyAddAndCustomizePages
```

(例) \$site = Get-SPOSite https://discoveries.sharepoint.com/sites/AccessLogSite
\$site.DenyAddAndCustomizePages

7. 次の行に、[Disabled]と表示されることを確認します。

```

管理者: Windows PowerShell
Windows PowerShell
Copyright (C) 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.

PS C:\windows\system32>
PS C:\windows\system32> Connect-SPOService https://[redacted]-admin.sharepoint.com
PS C:\windows\system32> $site = Get-SPOSite https://[redacted].sharepoint.com/sites/[redacted]
PS C:\windows\system32> $site.DenyAddAndCustomizePages
Disabled
PS C:\windows\system32>

```

8. 結果が[Disabled]ではなく、「Enabled」と表示された場合、以下を入力し、エンターキーを押下します。

```
Set-SPOSite https://<お客様のテナント名>.sharepoint.com/sites/<アプリを配置したいサイト名> -DenyAddAndCustomizePages 0
```

(例) Set-SPOSite https://discoveries.sharepoint.com/sites/AccessLogSite
-DenyAddAndCustomizePages 0

※一行で入力します。

9. 続けて、手順 5 を実施し、[Disabled]と表示されることを確認します。

```

PS C:\windows\system32> Set-SPOSite https://[redacted].sharepoint.com/sites/[redacted] -DenyAddAndCustomizePages 0
PS C:\windows\system32> $site = Get-SPOSite https://[redacted].sharepoint.com/sites/[redacted]
PS C:\windows\system32> $site.DenyAddAndCustomizePages
Disabled
PS C:\windows\system32>

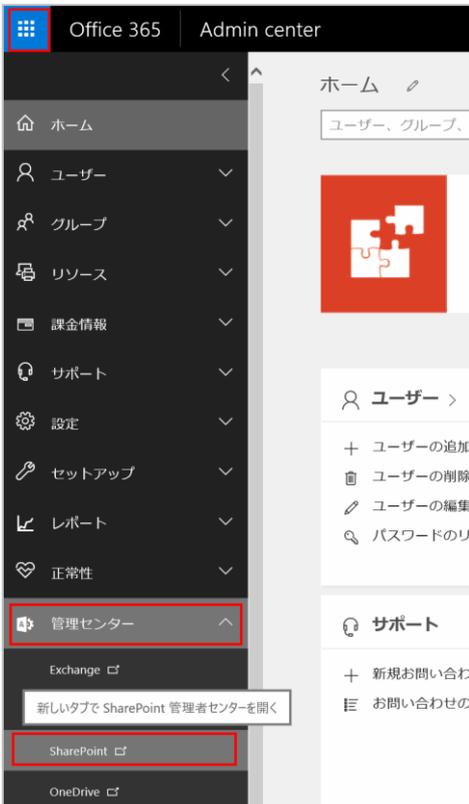
```

※「カスタムスクリプト」についてのご不明点は、マイクロソフト社サポートにお問い合わせください。

2.3 アプリカタログの作成

お客様のテナントにアプリカタログが存在しない場合は、新規作成します。

1. Office365 管理者センター<<https://portal.office.com/adminportal/>>にサインインします。
2. 左上の Office365 メニューより、[管理者センター] - [SharePoint]をクリックします。



3. [SharePoint 管理センター]が開きます。左メニューから[アプリ]をクリックし、[アプリカタログ]をクリックします。



- テナント固有のアプリカタログがない場合、以下の画面が表示されます。
※既にアプリカタログが存在する場合は、次章に進んでください。
- [新しいアプリカタログサイトを作成する]がチェックされていることを確認し、[OK]をクリックします。

Office 365 管理者

SharePoint 管理センター

サイト コレクション

infopath

ユーザー プロファイル

bcs

用語ストア

レコード管理

検索

secure store

アプリ

設定

アプリ カタログ サイト

テナント用に作成されたアプリ カタログはありません。

新しいアプリ カタログ サイトを作成する

既存のアプリ カタログ サイトの URL を入力する

アプリ カタログ サイトには SharePoint 用アプリと Office 用アプリのカタログが格納されます。このサイトを使用して、エンドユーザーがアプリを利用できるようになります。

OK

- 任意の情報を入力し、[OK]をクリックします。

Office 365 管理者

SharePoint 管理センター

アプリ カタログ サイト コレクションの作成

タイトル: AppCatalog

Web サイトのアドレス: https://.sharepoint.com/sites/AppCatalog

言語の選択: Japanese

タイムゾーン: (UTC+09:00) 大阪、札幌、東京

管理者: [User Icon]

サーバー リソース クォータ: 300 (リソースが 4400 リソース中 使用可能)

OK キャンセル

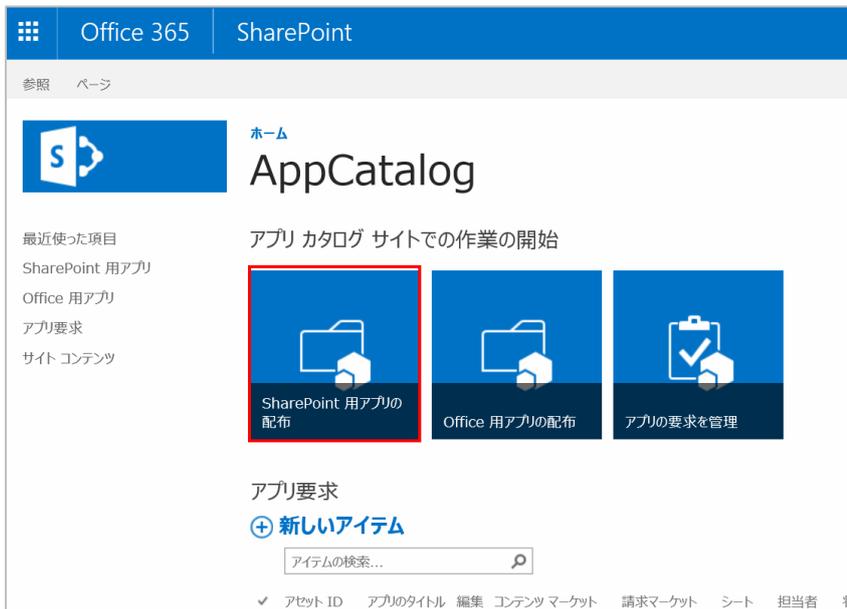
2.4 アプリカタログへ展開

アプリカタログにインテリレポートアプリを展開します。

1. [SharePoint 管理センター]を開き、左メニューから[アプリ]をクリックし、[アプリカタログ]をクリックします。



2. アプリカタログサイトが開くので、[SharePoint 用アプリの配布]をクリックします。



3. [SharePoint 用アプリ]画面が開きます。

- 事前準備で用意した以下のファイルをアップロードします。
 - Discoveries.O365.SP.Intellireport.app
- 「アップロードが完了しました。」というメッセージが表示されることを確認します。



- 事前準備で用意した以下のファイルをアップロードします。
 - IntelliReportForModernUI.sppkg
- ダイアログが表示されるので、[このソリューションを組織内のすべてのサイトで使用できるようにする]のチェックがオフの状態、[展開]をクリックします。



- 「アップロードが完了しました。」というメッセージが表示されることを確認します。



2.5 クライアント ID シークレットの登録

アクセスログ取得対象のサイトコレクション(サイト)からインテリレポートアプリ設定画面(ConfigForm)に接続するためには、アプリ情報の登録が必要です。本章では、クライアント ID シークレット情報の登録方法を説明します。

※既にインテリレポートアプリを追加したことがある場合、重複エラーが発生する場合があります。再登録が必要な場合には、先に「3.3 クライアント ID シークレット情報の削除手順」を実施してください。

1. アプリ情報の登録画面を開きます。

<https://<お客様のテナント名>.sharepoint.com/_layouts/15/AppRegNew.aspx>

(例) https://discoveries.sharepoint.com/_layouts/15/AppRegNew.aspx

2. 以下の情報を入力します。

※[生成]ボタンはクリックしません。

クライアント ID	b914e663-a578-43aa-80ea-49a6b656fbf8
クライアントシークレット	glZgFOh0Ho4UF4JSKk59StVrN8OmdslmiJz6dJYT120=
タイトル	IntelliReport
アプリケーションドメイン	discoveriesintellireport.azurewebsites.net
リダイレクト URL	https://discoveriesintellireport.azurewebsites.net/ConfigForm/Index

3. [作成]をクリックします。

アプリ情報
アプリ ID、シークレット、タイトル、ホスティング URL、リダイレクト URL などのアプリ情報です。

クライアント ID:

クライアントシークレット:

タイトル:

アプリドメイン:

例: "www.contoso.com"

リダイレクト先の URI:

例: "https://www.contoso.com/default.aspx"

注意：クリックしません。

以上で、インテリレポートアプリが SharePoint Online に追加されました。

次は、実際にアクセスログを取得するサイトコレクション(サイト)に対して、アプリ追加設定を実施します。詳細は、別紙「02_IntelliReport_Add-ins_InstallationManual_SiteCollection.pdf : アドイン設置手順書(サイトコレクション編)」をご参照ください。

クライアント ID シークレットの有効期限切れ時に通知を受け取りたい場合、後述の手順 4 以降を実施してください。

- IntelliReport のレポートサイト<<https://intelli.report/>>に全体管理者アカウントでサインインします。
- 歯車アイコンのメニューから「設定」の「アクセストークン設定」をクリックします。



- アクセストークン設定画面の「アクセスログ」タブで「有効期限」欄に作業実施日の 1 年後の日付を入力し「設定」ボタンをクリックします。



The screenshot shows the 'アクセストークン設定' (Access Token Settings) page. The '有効期限' (Valid Period) field is highlighted with a red rectangular box, and the '設定' (Settings) button is also highlighted with a red rectangular box. The field contains the text '例) 2020/01/01'.

- 「設定が完了しました」と表示されたら設定は完了です。



The screenshot shows the 'アクセストークン設定' (Access Token Settings) page. The '有効期限' (Valid Period) field is highlighted with a red rectangular box, and the '設定' (Settings) button is also highlighted with a red rectangular box. The field contains the text '2025/01/01'. A confirmation message '✓ 設定が完了しました。' (Settings completed) is displayed above the field, also highlighted with a red rectangular box.

※有効期限を登録すると、期限日の 30 日前と 10 日前に全体管理者宛にメール通知が送信されます。

また期限日の 30 日前からダッシュボード上に有効期限が切れる旨のメッセージが表示されるようになります。

※有効期限の登録(手順 4～7)は任意です

2.6 Office365 監査ログ連携設定

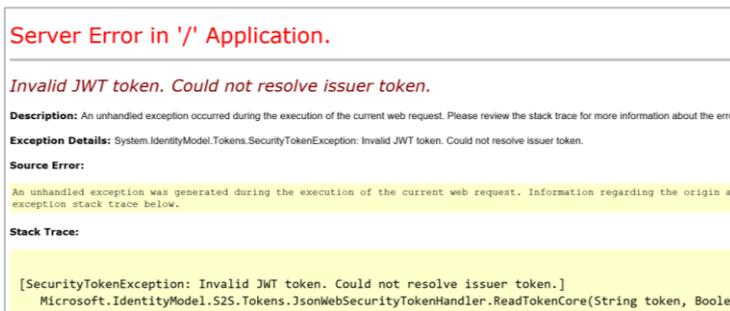
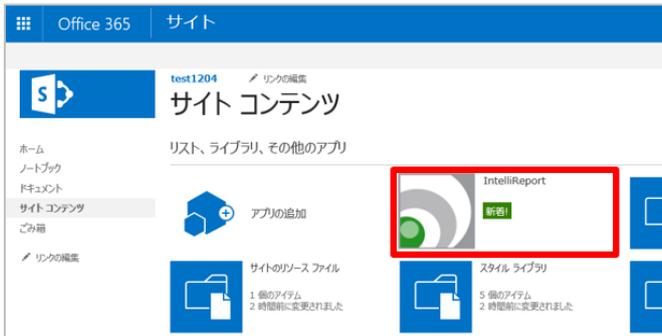
Office365 監査ログ機能を有効化し、弊社インテリレポートサーバーと連携することで、監査ログ機能が利用可能になります。

詳細については、別紙「03_AuditLogSetting.pdf : インテリレポート Office 365 監査ログ連携機能アクティブ化手順書」をご参照ください。

3 Appendix

3.1 クライアント ID シークレット情報の期限更新手順

インテリレポートアプリをインストール後、一年を超過すると、クライアント ID シークレット情報の有効期限が切れ、アプリ設定画面(ConfigForm)に、「Invalid JWT token」サーバーエラーメッセージが表示されるようになります。本手順を実施し、有効期限を更新してください。



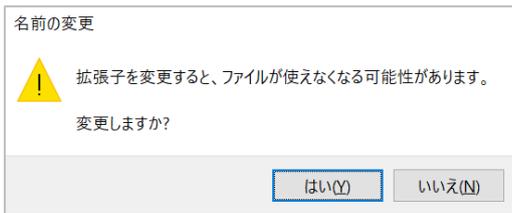
3.1.1 更新用ファイル準備

作業に使用する実行ファイルを準備します。

1. ITRrenew.zip ファイルを作業端末の任意の場所に保存します。
2. Cドライブ直下に「temp」フォルダを新規作成します。(既存のフォルダがあれば使用します。)
3. ITRrenew.zip ファイルを解凍し、「C:¥temp」フォルダに保存します。(C:¥temp¥ITRrenew)
4. 解凍した 2 つのファイルから、それぞれファイル名末尾の「.txt」を削除します。
 - ・ ReportClientSecret.ps1.txt 対象確認用スクリプト
 - ・ RenewClientSecret.ps1.txt 更新用スクリプト

名前	更新日時	種類
RenewClientSecret.ps1.txt	2017/03/17 14:42	テキストドキュメント
ReportClientSecret.ps1.txt	2017/03/15 16:12	テキストドキュメント

5. ダイアログが表示されるので、「はい」を選択します。



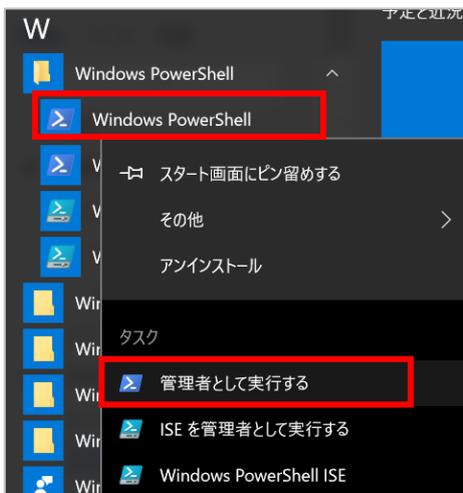
6. ファイルの種類が「Windows PowerShell スクリプト」に変更されます。

名前	更新日時	種類
RenewClientSecret.ps1	2017/03/17 14:42	Windows PowerShell スクリプト
ReportClientSecret.ps1	2017/03/15 16:12	Windows PowerShell スクリプト

3.1.2 更新対象確認

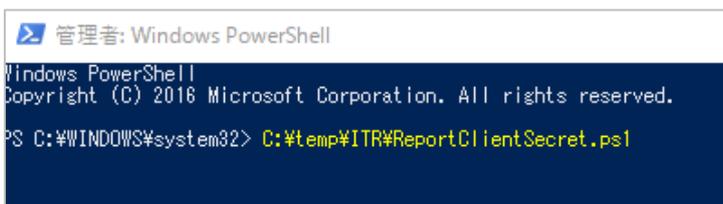
対象のアプリ情報が存在することを確認します。

1. スタートメニューから、Windows PowerShell を管理者として実行します。



2. ユーザーアカウント制御が表示されるので、「はい」を選択します。

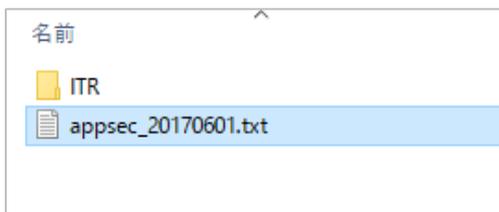
3. 前述のファイル準備で用意した「C:¥temp¥ITRrenew¥ReportClientSecret.ps1」を実行します。
(画像では、C:¥temp¥ITR フォルダにファイルを展開しています。)



4. ダイアログが表示されるので、AzureAD 全体管理者権限のアカウントとパスワードを入力し、「OK」を選択します。



1. スクリプトの実行に成功すると、「C:¥temp¥appsec.txt」が作成されます。
2. 作成されたファイル名を、「appsec_yyyyMMdd.txt」に変更します。(後の手順で同名ファイルを作成するため。)



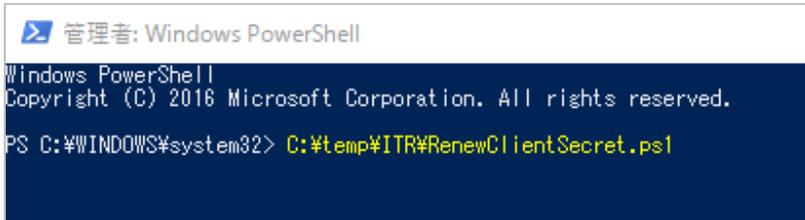
5. テキストファイルを開き、3 箇所にある「EndDate」の日付を確認します。
- ※EndDate が十分に先の日付だった場合、以降の手順を実施する必要はありません。
 - ※EndDate が過去・直近の日付だった場合、以降の手順を実施し、期限を延長してください。



3.1.3 更新スクリプト実行

対象のアプリ情報を更新します。

1. 前述のファイル準備で用意した「C:¥temp¥ITR¥RenewClientSecret.ps1」を実行します。
(画像では、C:¥temp¥ITR フォルダにファイルを展開しています。)



```

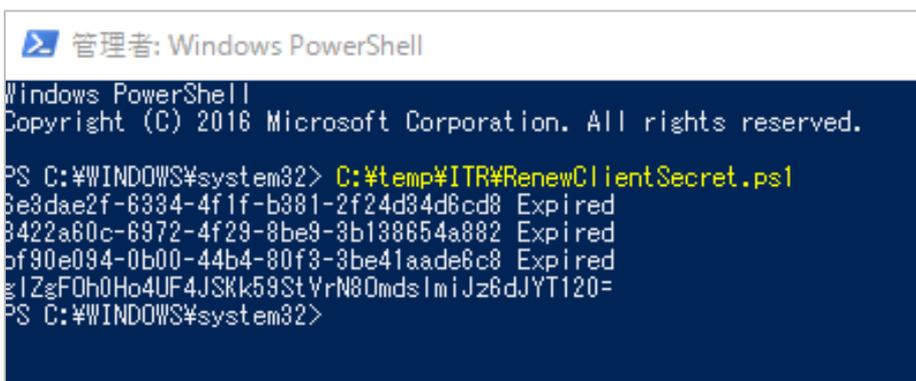
管理者: Windows PowerShell
Windows PowerShell
Copyright (C) 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.

PS C:¥WINDOWS¥system32> C:¥temp¥ITR¥RenewClientSecret.ps1
  
```

2. ダイアログが表示されるので、AzureAD 全体管理者権限のアカウントとパスワードを入力し、「OK」を選択します。



3. 正常に完了すると、「appsec_yyyyMMdd.txt」に記載されていた KeyId が 3 種類と文字列が 1 行表示されます。

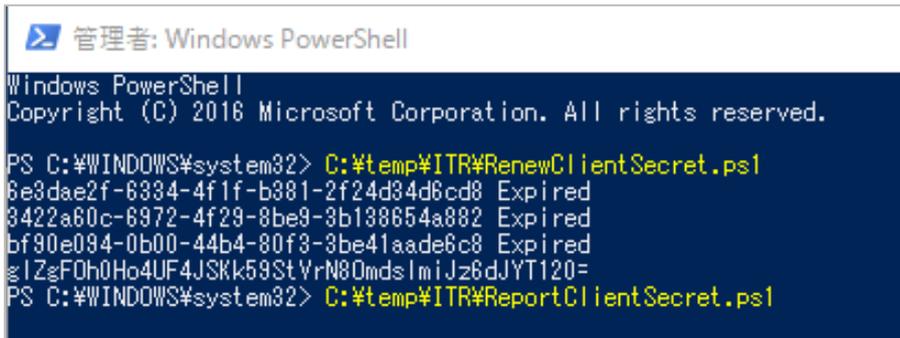


```

管理者: Windows PowerShell
Windows PowerShell
Copyright (C) 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.

PS C:¥WINDOWS¥system32> C:¥temp¥ITR¥RenewClientSecret.ps1
3e3dae2f-6334-4f1f-b381-2f24d34d6cd8 Expired
3422a60c-6972-4f29-8be9-3b138654a882 Expired
bf90e094-0b00-44b4-80f3-3be41aade6c8 Expired
gIz&FOh0Ho4UF4JSKk59StVrN8OmdsImiJz6dJYT120=
PS C:¥WINDOWS¥system32>
  
```

4. 続けて、「C:¥temp¥ITRrenew¥ReportClientSecret.ps1」を実行します。



```

管理: Windows PowerShell
Windows PowerShell
Copyright (C) 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.

PS C:¥WINDOWS¥system32> C:¥temp¥ITR¥RenewClientSecret.ps1
6e3dae2f-6334-4f1f-b381-2f24d34d6cd8 Expired
3422a60c-6972-4f29-8be9-3b138654a882 Expired
bf90e094-0b00-44b4-80f3-3be41aade6c8 Expired
gIZgFOh0Ho4UF4JSKk59StVrN8OmdsImiJz6dJYT120=
PS C:¥WINDOWS¥system32> C:¥temp¥ITR¥ReportClientSecret.ps1

```

5. ダイアログが表示されるので、AzureAD 全体管理者権限のアカウントとパスワードを入力し、「OK」を選択します。



6. スクリプトの実行に成功すると、「C:¥temp¥appsec.txt」が作成されます。
7. 3箇所ある「EndDate」が、3年後の日付に変更されたことを確認します。



```

appsec.txt - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
PrincipalId : b914e663-a578-43aa-80ea-49a6b656fbf8
PrincipalName : IntelliReport
Keys
Type : Password
Value :
KeyId : 6201eb7f-6da8-4828-b14e-6870d81d9923
StartDate : 06/02/2017 03:27:33
EndDate : 06/02/2020 03:27:33
Usage : verify
Type : Symmetric
Value :
KeyId : fc6131f2-df9d-4624-90e5-2b5395f265cd
StartDate : 06/02/2017 03:27:33
EndDate : 06/02/2020 03:27:33
Usage : verify
Type : Symmetric
Value :
KeyId : 42e33210-228a-412a-9aa4-eb27f1ab2885
StartDate : 06/02/2017 03:27:33
EndDate : 06/02/2020 03:27:33
Usage : Sign
-----

```

- IntelliReport のレポートサイト<<https://intelli.report/>>に全体管理者アカウントでサインインします。
- 歯車アイコンのメニューから「設定」の「アクセストークン設定」をクリックします。



- アクセストークン設定画面の「アクセスログ」タブで「有効期限」欄に手順 7 で確認した「EndDate」の日付を入力し「設定」ボタンをクリックします。

A screenshot of the 'アクセストークン設定' (Access Token Settings) screen. The screen shows the 'アクセスログ' (Access Log) tab selected. Under the 'クライアントシークレット' (Client Secret) section, there is a note: 'クライアントシークレット情報の登録または実施時に、本手順を実施してください。' (Please follow this procedure when registering or implementing client secret information). Below this, the '有効期限' (Valid Period) field is highlighted with a red box and contains the text '例) 2020/01/01'. To the right of this field is a '設定' (Settings) button, which is also highlighted with a red box.

- 「設定が完了しました」と表示されたら設定は完了です。

A screenshot of the 'アクセストークン設定' (Access Token Settings) screen showing a confirmation message. The message '✓ 設定が完了しました。' (Settings completed) is highlighted with a red box. Below the message, the '有効期限' (Valid Period) field is visible and contains the date '2025/01/01'. The '設定' (Settings) button is also visible at the bottom right.

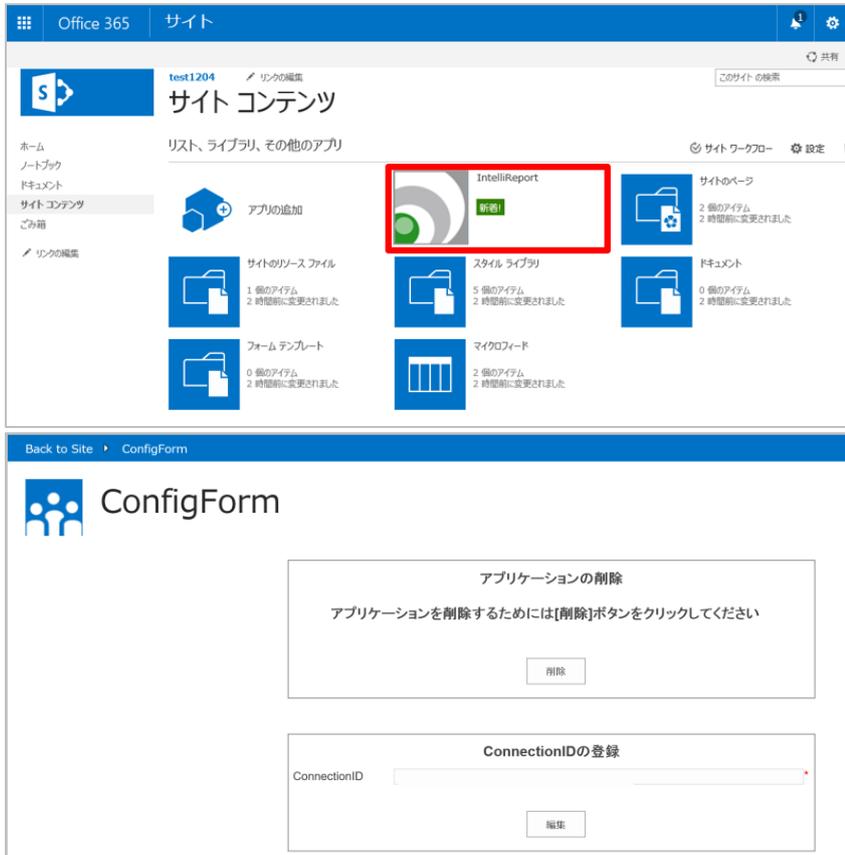
※有効期限を登録すると、期限日の 30 日前と 10 日前に全体管理者宛にメール通知が送信されます。

また期限日の 30 日前からダッシュボード上に有効期限が切れる旨のメッセージが表示されるようになります。

※有効期限の登録(手順 8~11)は任意です

3.1.4 更新後の確認

1. インテルレポートのアプリ画面に設定が反映されるまで、一時間ほど要します。
2. 設定から一時間経過後にアプリ画面を開き、正しく表示されることを確認します。



3.2 アプリインストール手順

インテリレポートのご契約期間が終了した場合、本手順を実施し、インテリレポートアプリを無効化します。

3.2.1 アクセスログ取得停止

アプリを追加したすべてのサイトコレクション(サイト)において、アクセスログの取得を停止します。

別紙、「02_IntelliReport_Add-ins_InstallationManual_SiteCollection.pdf : アドイン設置手順書(サイトコレクション編)」の「3.1 サブサイトのアクセスログ取得を停止する」および「3.2 トップレベルサイトのアクセスログ取得を停止する」をご参照ください。

本手順を実施せずにインテリレポートアプリを削除した場合、アクセスログ取得処理が停止されませんのでご注意ください。

3.2.2 サイトコンテンツからの削除

アプリを追加したすべてのサイトコレクション(サイト)において、インテリレポートアプリを削除します。

別紙、「02_IntelliReport_Add-ins_InstallationManual_SiteCollection.pdf : アドイン設置手順書(サイトコレクション編)」の「3.3 アプリのアンインストール手順」をご参照ください。

3.2.3 アプリカタログからの削除

アプリカタログから、追加された 2 種類のインテリレポートアプリを削除します。

1. [SharePoint 管理センター]を開きます。
2. [アプリ] - [アプリカタログ]を開きます。



3. [SharePoint 用アプリの配布]を選択します。



4. SharePoint 用アプリ一覧から「IntelliReport」を探し、[...]をクリックします。
5. ダイアログ上の[...]をクリックし、[削除]をクリックします。



6. 削除確認メッセージが表示されるので、[OK]をクリックします。



7. 同じく、SharePoint 用アプリ一覧から「IntelliReportForModernUI」を探し、削除します。
8. 画面右上の歯車メニューから「サイトの設定」を開き、「ごみ箱」を開きます。
9. 削除した「IntelliReport」および「IntelliReportForModernUI」を、ごみ箱とサイトコレクションのごみ箱から完全に削除します。

3.3 クライアント ID シークレット情報の削除手順

インテルレポートアプリをアンインストール後、アプリカタログにクライアント ID シークレット情報が一部残存する場合があります。この場合、インテルレポートアプリを再度インストールする際に重複エラーが発生します。必要に応じて、本手順を実施してください。

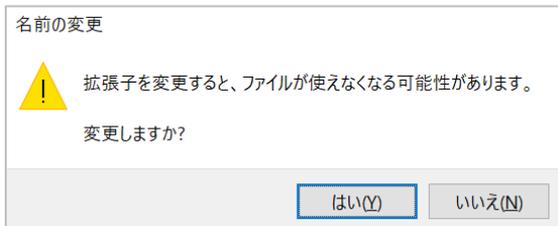
3.3.1 削除用ファイル準備

作業に使用する実行ファイルを準備します。

1. ITRremove.zip ファイルを作業端末の任意の場所に保存します。
2. Cドライブ直下に「temp」フォルダを新規作成します。(既存のフォルダがあれば使用します。)
3. ITRremove.zip ファイルを解凍し、「C:¥temp」フォルダに保存します。(C:¥temp¥ITRremove)
4. 解凍した 2 つのファイルから、それぞれファイル名末尾の「.txt」を削除します。
 - ・ check.ps1.txt 対象確認用スクリプト
 - ・ remove.ps1.txt 対象削除用スクリプト

名前	更新日時	種類
check.ps1.txt	2017/08/23 11:30	テキスト ドキュメント
remove.ps1.txt	2017/08/23 11:47	テキスト ドキュメント

5. ダイアログが表示されるので、「はい」を選択します。



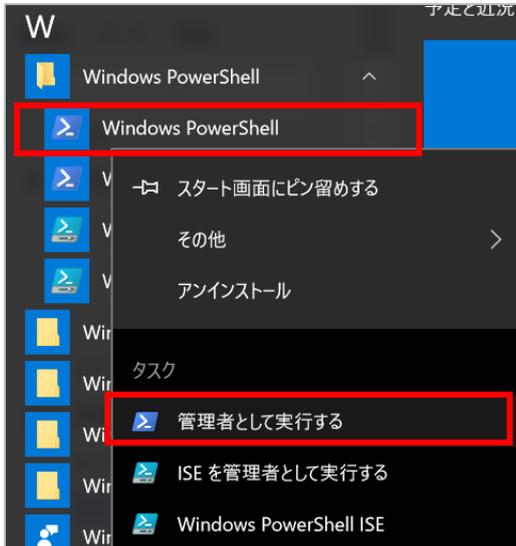
6. ファイルの種類が「Windows PowerShell スクリプト」に変更されます。

名前	更新日時	種類
check.ps1	2017/08/23 11:30	Windows PowerShell スクリプト
remove.ps1	2017/08/23 11:47	Windows PowerShell スクリプト

3.3.2 削除対象確認

削除対象のアプリ情報が存在することを確認します。

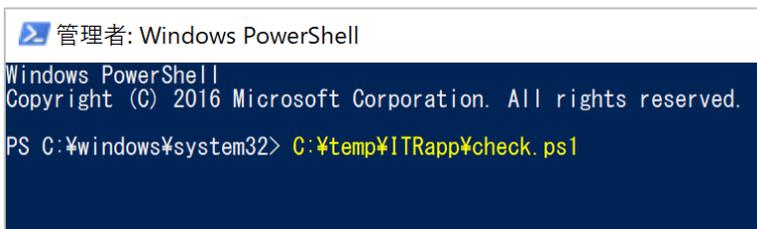
3. スタートメニューから、Windows PowerShell を管理者として実行します。



4. ユーザーアカウント制御が表示されるので、「はい」を選択します。

5. 前述のファイル準備で用意した「C:¥temp¥ITRremove¥check.ps1」を実行します。

(画像では、C:¥temp¥ITRapp フォルダにファイルを展開しています。)



6. ダイアログが表示されるので、AzureAD 全体管理者権限のアカウントとパスワードを入力し、「OK」を選択します。



7. スクリプトの実行に成功すると、「C:¥temp¥check.txt」が作成されます。
作成されたファイル名を、「check_before.txt」に変更します。(後の手順で同名ファイルを作成するため。)
ファイルを開くと、インテリレポートアプリの情報が確認できます。
以降の手順を実施し、クライアント ID シークレットを削除します。

```
check_before.txt - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
#TYPE Microsoft.Online.Administration.ServicePrincipal
"ExtensionData","AccountEnabled","Addresses","AppPrincipalId","DisplayName","ObjectId","ServicePrincipalNames","TrustedForDelegation"
"System.Runtime.Serialization.ExtensionDataObject","True","System.Collections.Generic.List`1
[Microsoft.Online.Administration.RedirectUri]","b914e663-a578-43aa-80ea-49a6b656fbf8","IntelliReport","b7b65f50-7bf7-4240-aafa-afeff640a696","System.Collections.Generic.List`1[System.String]","False"
```

- ※スクリプトの実行がエラーの場合、削除対象が存在しません。他の原因調査が必要です。
※アプリカATALOGが正常に紐づけられていない場合も、エラーになる可能性があります。

```
PS C:¥windows¥system32> C:¥temp¥ITRapp¥check.ps1
コマンド パイプライン位置 1 のコマンドレット Get-Credential
次のパラメーターに値を指定してください:
Credential
Get-MSOLServicePrincipal : Service principal was not found.
発生場所 C:¥temp¥ITRapp¥check.ps1:6 文字:1
+ Get-MSOLServicePrincipal -ServicePrincipalName "b914e663-a578-43aa-80...
+
+ CategoryInfo          : OperationStopped: (:) [Get-MSOLServicePrincipal], MicrosoftOnlineE
+ FullyQualifiedErrorId : Microsoft.Online.Administration.Automation.ServicePrincipalNotFoun
nline.Administration.Automation.GetServicePrincipal
```

3.3.3 削除スクリプト実行

削除対象のアプリ情報を削除します。

1. 前述のファイル準備で用意した「C:¥temp¥ITRremove¥remove.ps1」を実行します。
(画像では、C:¥temp¥ITRapp フォルダにファイルを展開しています。)

```
管理者: Windows PowerShell
Windows PowerShell
Copyright (C) 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.
PS C:¥windows¥system32> C:¥temp¥ITRapp¥remove.ps1
```

2. ダイアログが表示されるので、AzureAD 全体管理者権限のアカウントとパスワードを入力し、「OK」を選択します。



3. この結果は特に表示されません。
 4. 続けて、「C:¥temp¥ITRremove¥check.ps1」をもう一度実行します。
 5. ダイアログが表示されるので、SharePoint Online 管理者のアカウントとパスワードを入力し、「OK」を選択します。



6. 削除後は、クライアントシークレットが見つからないため、not found エラーとなります。

```
PS C:¥windows¥system32> C:¥temp¥ITRapp¥check.ps1
コマンド パイプライン位置 1 のコマンドレット Get-Credential
次のパラメーターに値を指定してください:
Credential
Get-MsolServicePrincipal : Service principal was not found.
発生場所 C:¥temp¥ITRapp¥check.ps1:6 文字:1
+ Get-MsolServicePrincipal -ServicePrincipalName ~b914e663-a578-43aa-80 ...
+ CategoryInfo          : OperationStopped: (:) [Get-MsolServicePrincipal],
+ FullyQualifiedErrorId : Microsoft.Online.Administration.Automation.Service
online.Administration.Automation.GetServicePrincipal
PS C:¥windows¥system32>
```

7. スクリプトの実行に成功すると、「C:¥temp¥check.txt」が作成されます。
 8. 作成されたファイル名を、「check_after.txt」に変更します。テキストファイルが空の状態であることを確認します。

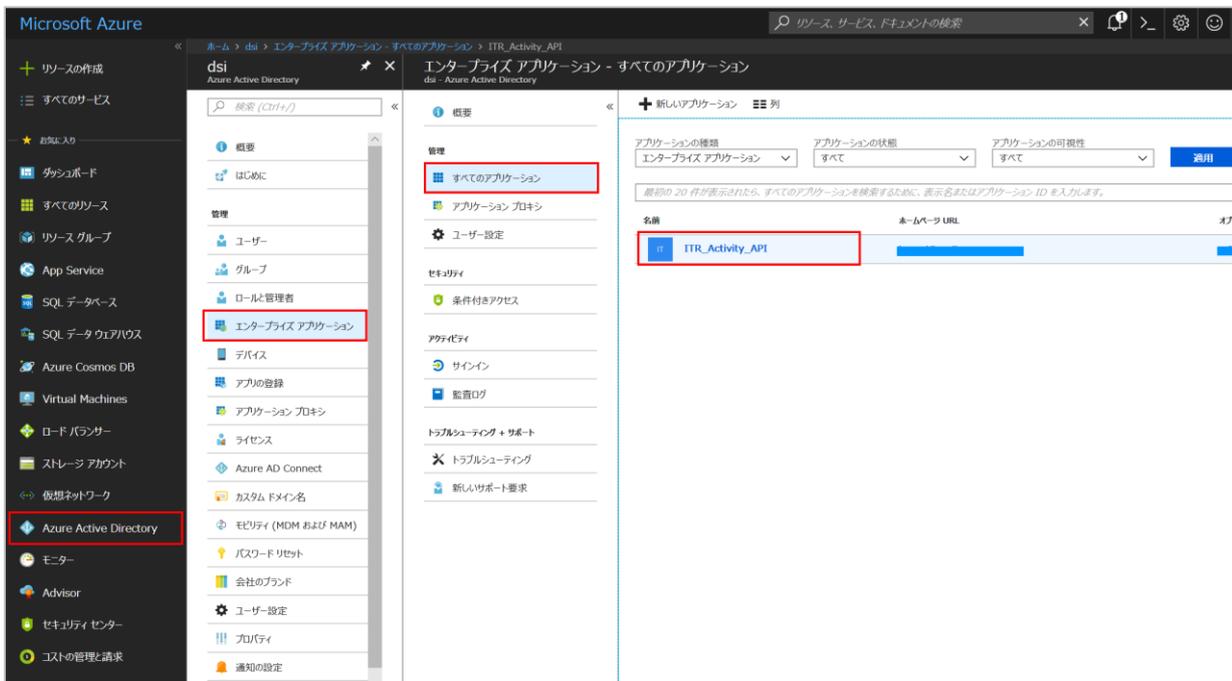
3.4 監査ログ連携用アプリの削除手順

Office365 監査ログ連携機能をご利用の場合、インテリレポートのご契約期間終了後、本手順を実施し、AzureAD 上に登録したアプリを削除します。

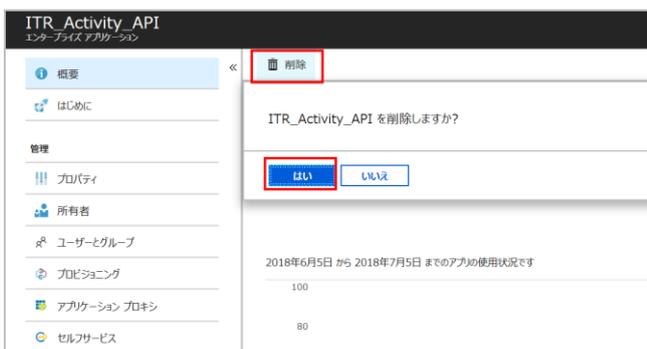
※本手順には、別紙「03_AuditLogSetting.pdf : インテリレポート Office365 監査ログ連携機能アクティブ化手順書」の「2.2 アプリケーションの作成」で作成したアプリケーション名(「ITR_Activity_API」等)が必要です。

※本手順には、アプリを追加した際に使用した Azure の全体管理者と同等の権限が必要です。

1. Azure 管理ポータル(<https://portal.azure.com/>)にアクセスし、Azure 全体管理者権限のアカウントでサインインします。
2. 左のメニューより、「Active Directory」をクリックし、「エンタープライズ アプリケーション」 - 「すべてのアプリケーション」を開きます。
3. 監査ログ連携用に追加したアプリケーション名をクリックします。ここでは、「ITR_Activity_API」を選択しています。



4. 上部メニューより「削除」をクリックし、削除確認メッセージが表示されるので「はい」をクリックします。



5. アプリケーションが削除されたことを確認します。

※以上で、インテリレポートサーバーとの連携が解除されます。

貴社テナントの Office 365 監査ログ機能については、引き続き利用可能な状態です。必要に応じて無効化を実施してください。Office 365 監査ログ機能についてのご不明点はマイクロソフト社へご連絡ください。

4 補足

本マニュアルは 2022 年 11 月 25 日現在時点となります。バージョンアップや機能強化などにより、実際にご利用の製品とは内容が異なる場合がありますのでご注意ください。

著作権

このドキュメントに記載されている情報（URL 等のインターネット Web サイトに関する情報を含む）は、将来予告なしに変更することがあります。別途記載されていない場合、このソフトウェアおよび関連するドキュメントで使用している会社、組織、製品、ドメイン名、電子メール アドレス、ロゴ、人物、場所、出来事などの名称は架空のもので、実在する名称とは一切関係ありません。お客様ご自身の責任において、適用されるすべての著作権関連法規に従ったご使用を願います。ディスカバリーズは、このドキュメントに記載されている内容に関し、特許、特許申請、商標、著作権、またはその他の無体財産権を有する場合があります。別途ディスカバリーズのライセンス契約上に明示の規定のない限り、このドキュメントはこれらの特許、商標、著作権、またはその他の無体財産権に関する権利をお客様に許諾するものではありません。

©2019 Discoveries Inc. All rights reserved.

Discoveries InSite および IntelliReport は、ディスカバリーズ株式会社の商標です。Microsoft、Office 365、Azure、SharePoint は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

以上